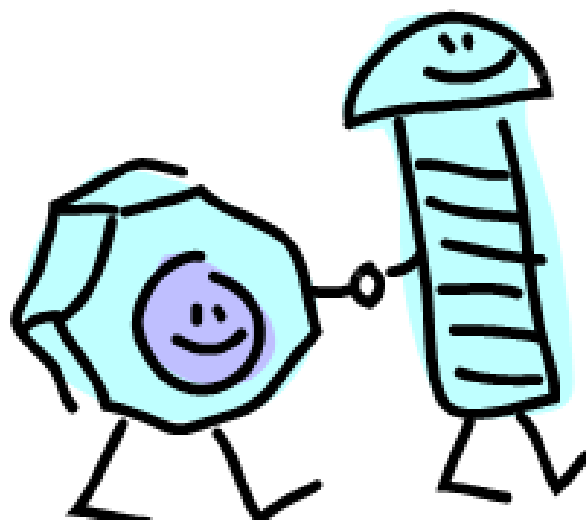


2020年度 環境経営レポート

(対象期間：2020年7月1日～2021年6月30日)



モノづくり応援プロジェクト

作成日：2021年9月24日

改定日：2022年3月22日

小林商工株式会社

目 次

項 目	ページ
1. 組織の概要	1
2. 環境経営方針	2
3. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表	3
4. 環境経営目標及びその実績	4-5
5. 環境経営計画及びその評価・次年度の計画	6-8
6. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反・訴訟等の有無	8
7. 代表者による全体の見直し・指示	8

1. 組織の概要

- 事業所名及び代表者氏名

小林商工株式会社
代表取締役社長 小林 真一

- 所在地

本 社 : 神奈川県横浜市神奈川区栄町 20-1 YMPF101
いずみ野工場 : 神奈川県泉区和泉中央北5-25-18

- 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 友井 三夫 TEL : 045-620-5368 FAX : 045-620-5182
Eメール : tomoi@kobasho.co.jp

担当者 : 永吉 正人 TEL : 045-620-5368 FAX : 045-620-5182
Eメール : nagayoshi@kobasho.co.jp

- 事業活動の内容

鋸螺及び関連部品の製造・販売、通信及び光学機器用精密部品の製造・販売

- 事業の規模

主要製品の売上高 25,000万円/30年度

	本社	いずみ野工場		
従業員数	11名	4名		
延床面積	123.57㎡	203.04㎡		

対象範囲

当社は全組織・全活動及びその全従業員を対象としています。

2. 環境経営方針

〈環境経営理念〉

小林商工株式会社は、鋅螺及び関連部品の製造・販売、通信及び光学機器用精密部品の製造・販売を通じてお客様の要望に応え地域社会から信頼される企業を目指します。同時に、事業活動を展開することは環境への負荷をもたらすものであり、広く環境対策に取り組むことが重要であると考えています。

このような認識のもと、全ての事業活動を通じて継続して温室効果ガス削減をはじめとする環境保全対策に取り組むとともに省資源対策にも取り組み、持続的な発展が可能な社会づくりに貢献していきます。

〈基本方針〉

環境に関連する法規制・条例等を遵守し、環境経営の継続的改善を図りながら、下記事項に取り組みます。

1. 節電と化石燃料の節約を進め、二酸化炭素排出量を削減し、地球温暖化防止に努めます。
2. 省資源による仕事を進めるように努め、廃棄物の発生量を低減します。
3. 節水に努め、水使用量を低減します。
4. 化学物質の適正管理に努めます。
5. 環境に配慮した鋅螺並びに関連部品の製造、販売に努めます。
6. グリーン購入を推進することにより、環境に配慮した調達を進めます。

社内要所に環境経営方針を掲示し、全従業員にエコアクション 21 環境経営方針を周知します。

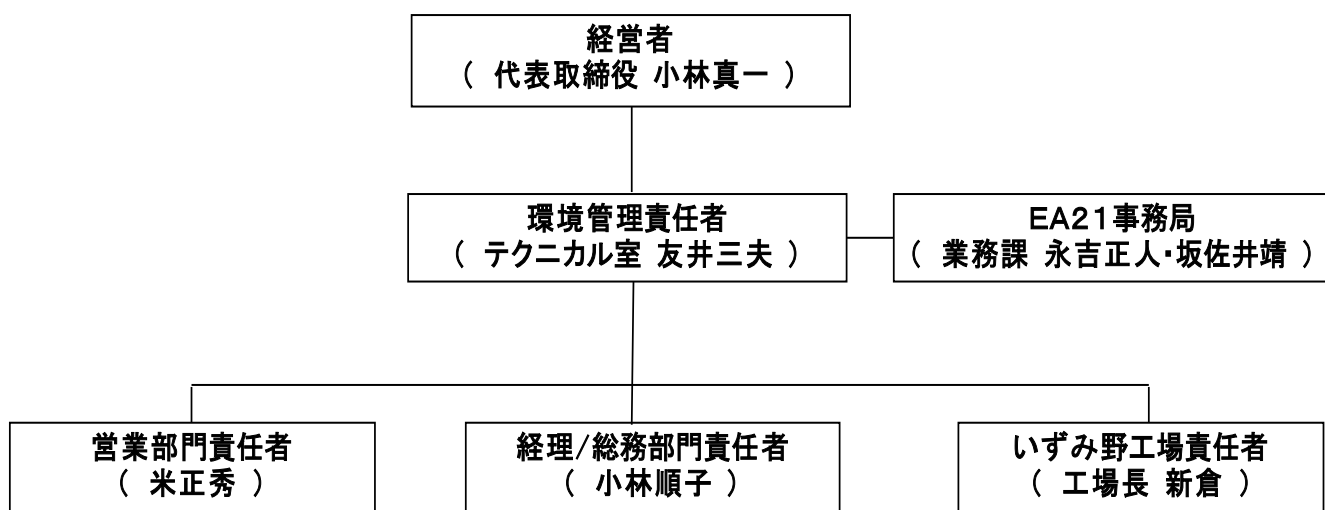
制定日 2018年7月23日

小林商工株式会社

代表取締役 小林 真一

3. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表

環境経営実施体制表



対象者	役割、責任及び権限
代表者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 取り組みの対象組織・活動の明確化 (要求事項1) 2. 代表者による経営における課題とチャンスの明確化(要求事項2) 3. 環境経営方針の策定、全従業員に周知 (要求事項3) 4. 実施体制の構築(要求事項7) 5. 代表者による全体の評価と見直し・指示(要求事項14) 6. 環境経営レポートの承認
環境管理責任者 (EA21事務局)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境負荷と環境への取組状況の把握及び評価(要求事項4:事務局担当) 2. 環境関連法規の取りまとめ(要求事項5:事務局担当) 3. 環境経営目標及び環境経営計画の策定(要求事項6) 4. 環境コミュニケーションの実施(要求事項9) 5. 取組状況の確認・評価、並びに問題の是正及び予防(要求事項13) 6. 文書類の作成・管理(要求事項12:事務局担当) 7. 環境経営レポートの作成・公表(事務局担当)、確認(環責)
部門責任者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・訓練の実施(要求事項8) 2. 実施及び運用(要求事項10) 3. 環境上の緊急事態への準備及び対応(要求事項11)
全従業員	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境経営方針の理解及び環境問題の現状と環境への取組の重要性の認識 2. 環境経営目標、環境経営計画などに基づくEA21活動の実施 3. EA21活動に関する提案

4. 環境経営目標及びその実績

4-1. 環境経営目標(本社)

	2017年度 基準年度 ★は2018年度	2020年度	2021年度	2022年度
1. 二酸化炭素排出量削減				
・電気 (kg-CO2)	4,976	3%削減	4%削減	5%削減
・ガリリ (kg-CO2)	26,460	3%削減	4%削減	5%削減
・都市ガス (kg-CO2)	784	3%削減	4%削減	5%削減
・CO2合計 (kg-CO2)	32,220	3%削減	4%削減	5%削減
2. 廃棄物排出量削減				
・一般廃棄物 (kg)	532	3%削減	4%削減	5%削減
3. 水使用量削減 (m ³)	59	現状維持		
4. ROHS対応品販売 (%)	★84.7	2%向上	3%向上	4%向上
5. グリーン購入 (%)	38.9	3%向上	4%向上	5%向上

※基準年度は、2017年7月～2018年6月

※CO2排出係数は、H28年東京電力Iが^ん-パ^ー-トナ^ー(株)の調整後排出係数0.474Kg-CO2/kWhを使用した。

※★は2017年度未把握の為、2018年度を基準年度とした。

4-2. 環境経営目標(いずみ野工場)

	2018年度 基準年度 ★は2017年度	2020年度	2021年度	2022年度
1. 二酸化炭素排出量削減				
・電気 (kg-CO2)	37,287	2%削減	3%削減	4%削減
・液化石油ガス (kg-CO2)	267	2%削減	3%削減	4%削減
・CO2合計 (kg-CO2)	37,554	2%削減	3%削減	4%削減
2. 廃棄物排出量削減				
・一般廃棄物 (kg)	170	2%削減	3%削減	4%削減
3. 水使用量削減 (m ³)	169	現状維持		
4. 化学物質適正管理 (kg)	800	全廃		
5. 製造不良数改善 (件)	13	10件以下		
6. グリーン購入 (%)	★38.9	3%向上	4%向上	5%向上

※基準年度は、2018年7月～2019年6月

※CO2排出係数は、H28年東京電力Iが^ん-パ^ー-トナ^ー(株)の調整後排出係数0.474Kg-CO2/kWhを使用した。

※★は全社共通目標の為、2017年度を基準年度とした。

4-3.運用結果

		基準年度	目標	実績	評価
1. 二酸化炭素排出量削減					
・電気 (kg-CO2)	本社	4,976	3%削減	3,996	○
	いずみ野工場	37,287	2%削減	33,192	○
・ガソリン (kg-CO2)	本社	26,460	3%削減	16,418	○
	いずみ野工場	-	-	-	-
・都市ガス (kg-CO2)	本社	784	3%削減	445	○
	いずみ野工場	-	-	-	-
・液化石油ガス (kg-CO2)	本社	-	-	-	-
	いずみ野工場	267	2%削減	219	○
・CO2合計 (kg-CO2)	本社	32,220	3%削減	20,858	○
	いずみ野工場	37,554	2%削減	33,412	○
	会社全体	69,774	3%削減	54,270	○
2. 廃棄物排出量削減					
・一般廃棄物 (kg)	本社	532	3%削減	406	○
	いずみ野工場	170	2%削減	165	○
3. 水使用量削減 (m ³)					
	本社	59	現状維持	84	×
	いずみ野工場	169	現状維持	181	×
4. 化学物質適正管理(kg)					
	本社	-	-	-	-
	いずみ野工場	800	全廃	800	×
5. ROHS対応品販売 (%)					
	本社	84.7	2%向上	89.2	○
	いずみ野工場	-	-	-	-
6. 製造不良数改善 (件)					
	本社	-	-	-	-
	いずみ野工場	13	10件以下	8	○
7. グリーン購入 (%)					
	本社	38.9	3%向上	33.0	×
	いずみ野工場				

○目標達成 △目標未達成但し基準年度より改善 ×目標未達成

5. 環境経営計画及びその評価と次年度の取組内容

5-1.環境経営計画及びその評価

環境経営計画	取組結果	評価
二酸化炭素排出量削減（電気）		
本社 ①空調温度の適正化（冷房：27℃ 暖房：20℃） ②IAQフィルターの定期清掃 ③クールビズの実施 ④外出時はパソコンの電源をOFF ⑤昼休みの消灯 ⑥遮熱シートの設置	室温管理を徹底でき効果は大きかったと思われる。 当番を決めて週に1度実施した。 クールビズは9月一杯実施した。 実施率は90%以上だった。 EA事務局が率先して消灯した。 遮熱効果により冷房の使用を控えることができた。	○ ○ ○ ○ ○ ○
いずみ野工場 ①空調温度の適正化（冷房：26℃ 暖房：20℃） ②照明のこまめなスイッチのON・OFF ③事務所内の照明をLEDに切替 ④残業及び休日出勤の削減 ⑤遮熱シートの設置	室温管理を徹底できた。 作業の際不要な照明をこまめにOFFにした。 LEDに切替を行った。 以前よりは削減する事が出来た。 遮熱効果により冷房の使用を控えることができた。	○ ○ ○ △ ○
二酸化炭素排出量削減(ガソリン)		
本社 ①エコドライブの実施 ②荷物を積む際のアイソリガの実施 ③車両以外の交通手段を併用	手順書を営業車に載せて意識を徹底した。 以前より改善されたが、実施できていない事もあった。 公共交通機関の使用は少なかった。	○ △ △
二酸化炭素排出量削減(都市ガス)		
本社 ①4～10月は使用しない ②エコ運転機能を使用する	ほぼ未使用だった。 使用の際はエコモードで使用した。	○ ○
二酸化炭素排出量削減(液化石油ガス)		
いずみ野工場 ①湯沸かし器の控えめ使用 ②最低温度に設定する	意識して取り組んだ 最低温度に設定した	○ ○
廃棄物排出量の削減		
本社及びいずみ野工場 ①B2用紙の裏紙を使用 ②会議資料は紙ではなくデータで共有する。 ③メール・クラウドを積極的に利用し紙の削減	EA取組前から実施。 会議に使用する紙の削減に効果があった。 会社全体でクラウドを有効活用できている。	○ ○ ○
水使用量の削減		
本社 ①手洗い等の使用の際、水を流しっぱなしにしない	目につくような無駄な使用はなかった。	○
いずみ野工場 ①節水ポスターの掲示 ②節水意識の徹底	流し場に節水ポスターを掲示した。 意識の向上は見られた。	○ △
化学物質適正管理		
いずみ野工場 ①SDSの取り寄せ ②使用量を控える ③全廃に向けての対策を検討	SDSを取り寄せ工場にて保管 生産量の増加もあり、使用量の削減はできなかった。 遠心分離機を導入し効果を確認した。	○ × ○
ROHS対応品販売促進		
本社 ①切替推奨品リストを作成し客先に配布	ROHS品に切替を行っていただいた客先があった。	○
製造不良数改善		
本社及びいずみ野工場 ①不良対策書を運用する。	運用する事が出来たが、発行もれがあった。	△
グリーン購入		
本社及びいずみ野工場 ①グリーン購入の切替推進	コストアップを考慮し積極的な切替には至らなかった。	×

○:達成 △:一部未達成 ×:未達成

5-2. 次年度の取組内容

5-2-1. 二酸化炭素排出量削減

- 電気 本社は目標達成。継続して実施する。
いずみ野工場については、初めての目標達成となった。
生産量が増加し機械の稼働率は上昇したが、
I7J 4 台を最新の物と交換した効果が大きかった。
また夏場に遮熱シートを設置した事により、工場内の気温上昇を抑える事が出来た。
次年度も引き続き取組を実施する。
- ガリソ 目標は大幅に達成。基準年度からの変更点として、
一番ガリソを使用していた東京方面の配達を、
基準年度からの変更点として毎日から週3日に変更した効果が大きかった。
- 都市ガス 目標は達成。継続して削減に努める。
- 液化石油ガス 目標を初めて達成。継続して削減に努める。

本社と工場共に初めて全ての項目で二酸化炭素排出量の目標を達成する事が出来た。

5-2-2. 廃棄物排出量削減

本社及びいずみ野工場共に目標達成。

会議では紙の資料をほぼ使用せず、クラウドを有効活用できている。

会社全体のペーパーリ化が進んでいる。

来年度中に現在使用している会社名等が印刷されているダンボールを、無地の物に変更して納入先が再利用しやすい様にする。取組は継続して実施する。

5-2-3. 水使用量の削減

本社は目標未達成。5～6月は大幅に使用量が増加してしまった。

通常使用ではなく故障等と思われるが、該当箇所が見当たらず原因は不明。

7～8月に使用量は例年通りの結果となった。次年度も取組を継続する。

いずみ野工場についてはわずかに未達となった。

本社と工場共にJICAに対応で手洗いによる使用も多かった。

5-2-4. 化学物質適正管理

使用量の削減はできなかった。遠心分離機を導入し使用、効果がある事を確認したが、生産量の増加もあり良い結果が出なかった。

長期的で段階的に削減する目標に変更し、次年度は目標を600Kg以下に変更する。

本社から工場への製作依頼の際に、完全脱脂が必要な物のみハンコを押印して、押印がない製品は遠心分離機による処理もしくは、古くなった溶剤を再使用する等して対応する。

工具に付着した油を洗浄する際の使用を控え、代わりに拭き取る様にする。

5-2-5. ROHS 対応品販売促進

六価クロム製品から三価クロム製品の切り替えを推奨するパンフレットを作成して、客先に配布した。

切替を実施していただけたお客様がいた。来年度も継続し配布する。

5-2-6. 製造不良数改善

目標は達成。継続して改善に努める。

社内で運用している不良対策書が現場の負担になってしまっているため、より簡素化したフィードバック票に変更し運用する。

客先より依頼された不良対策書は引き続き対応する。

5-2-7. グリーン購入

目標は未達成。JST UP に繋がる物が多く切替が進まなかった。

来年度より目標をグリーン製品の購入率の向上から購入の推進に変更する。

数値目標は無くなるが意識を持ってもらう為、毎月の数値を記録する事は変更せず続ける。

6. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反・訴訟等の有無

区分	環境関連法規等名称	遵守状況 確認・評価
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法) (一般廃棄物の処理)	○
化学物質	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善 の促進に関する法律 (PRTR法) SDS制度	○
資源循環 (リサイクル)	特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	○
	使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律 (小型家電リサイクル法)	○
大気汚染	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	○

当社に関する環境関連法規などは上記の通りですが、遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関連機関からの違反等の指摘、環境関連の訴訟も過去3年間ありません。なお、外部からの苦情は活動期間中にはありませんでした。

7. 代表者による全体の評価と見直し・指示

弊社が環境への取り組みを効果的・効率的に行うことを目的にISO26000 21 認証を取得してから3年が経過しましたが、依然としてCOVID-19による影響は否めません。そんな中評価の結果として、本社と工場共に初めてすべての項目で二酸化炭素排出量の目標を達成することが出来ました。ISO26000 21 に取り組んで以降、温室効果ガス削減をはじめとする環境保全対策に取り組むとともに省資源対策にも取り組み、定量的に評価できるようになり、またPDCAサイクルを機能させることで継続的・発展的な活動とすることができるようになったと考えています。今後も、ISO26000 21 を皆が理解し合い、持続可能な環境活動として取り組んでいくことにより社会的責任の一環として継続していきます。